

実施日： 11/8～12/7	
領 域：道徳	
取組名：ハンセン病に対する偏見の誤りに気づき、誰もが安心してできる社会をめざそう	
対 象：5年生	実施場所：各教室
ア ねらい ・元ハンセン病患者の人々の思いや願いを知り、偏見の目で接することの誤りに気づき、すべての人々が住みやすい社会にしようとする意欲をもつ。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 ・ハンセン病患者やその家族の思いについて考え、話し合う。 ○療養施設と本土の間に橋がかけられた時 ○「らい予防法」が廃止された時 ○宿泊を拒否された時 ・介護施設で出会った人との会話を通して、心が温かくなった理由を考える。 ・元ハンセン病患者さんからの手紙を聞き、感想をワークシートに書く。	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 ・学級通信を通して授業内容などを家庭に発信した。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・学年部による研修の中で、ハンセン病についての学習会を教師自身が行った。 ・板書やワークシート、掲示物を保管し、来年度以降も授業が継続できるようにした。	
カ 評価の方法 ・意見発表 ・ワークシートへの記述内容	
キ 成果 ・ハンセン病について理解するだけでなく、偏見の目で接することの誤りに気づき、真実を知ることがすべての人にとって住みやすい社会につながることを学ぶことができた。 ・何も知らないことは怖い、どんな時でもどんなことでも真実を知ることが大切であるということに気づくことができた。 ・子どもたちの学習したことを通信を通して家庭に発信したことで、家庭内でもハンセン病を通して「正しく知る、そして正しく伝える」ことの大切さについて親子で学ぶことができた。	
ク 課題 ・ハンセン病について学ぶこと（知識を手に入れること）は大切だが、それだけで終わってしまっただけでは意味がない。ハンセン病を通して正しく知ること、正しく判断することの大切さを学んだ。これからの様々な場面の中で活かしていかなければならない。	